

## 同窓会

長崎県立佐世保南高等学校同窓会の結成は、第一回卒業生の誕生と時を同じくしている。同窓会の発足にあたり、当初の会長は当時の校長亀屋照三先生が就任したが同窓生の初代会長は栗崎謹吾氏（一回卒）である。戦後の学制改革で市内の旧制中学校や女学校が統合され北高校と兄弟校として誕生した経過は、長崎の東・西高校も似ており交流も活発であった。会則が整備され、同窓会活動も活発となった。殊に新制高等学校となり、戦後、民主化の意気込みのなかで、食糧をはじめあらゆる物資が欠乏し、ひもじい思いをした同窓生の結束はかたく、また母校への思いも強いものがあつた。

毎年、総会は会員の要望を汲み、母校で行つた後、弓張岳に登りフォークダンスを行つたり、白浜や川棚の小串郷海水浴場、九十九島遊覧等活発な交流を行つた。また、日本を代表するバイオリン奏者の辻久子氏の招聘や我が国女子登山史に大きな足跡を刻み、女性隊で世界最初のエベレスト登頂に成功し、世紀の偉業を成し遂げた登山隊長の久野英子（旧姓宮崎）氏（三回卒）の講演会など文化的事業も積極的に取り組んだ。

母校の教育活動への援助や環境整備へも協力を惜しまなかつた。ことに、公認五十メートルプールの建設にあつては、まだまだ少ない会員で育友会とも連携をとり多額の募金活動を行つた。さらにどこの学校にも負けない立派な校旗や体育

祭の優勝旗・盾、毎年の体育祭・登山マラソンの賞品を、体育館その他の落成には緞帳を寄贈した。グラウンドで行う後輩の部活動に時間がわかるように時計を、新校舎の落成にあつては中庭の植樹・造園もすすめた。

昭和三十年代までは後輩の育英資金や大学進学への奨学金を提供することもあつた。時の流れの中で昭和五十年代に総会開催が途絶えたりしたが、同窓生の絆と母校を思う気持ちは会員のなかに脈々と流れていた。

平成元年、大きな足跡を残した栗崎会長が顧問になって、永田龍馬氏（十一回卒）が会長となり活動の活性化を図り、維持会費の徴収を手掛け東京支部の結成を実現した。

二年後、知名定務氏（十三回卒）が会長となつたが二期目の任期半ばにして急逝、副会長の久田順子氏（六回卒）が引継ぎ現在にいたつてゐる。平成九年度からは母校創立五十周年記念事業の推進に全力を投球し、また本部からの働き掛けで念願の関西支部の結成を実現した。

福岡では自発的に二十年前から同窓会活動が始まり、すでに十九回の年次総会が開催されている。年次総会だけでなく、玉龍旗・金鷲旗をはじめ、母校の後輩たちが出場する福岡での各種大会の応援や、福岡北星会とゴルフの対抗戦など地元スポーツ紙にも紹介されるほどの活動ぶりである。

熊本では三校（旧中・南・北）同窓会として活動してきたが、これまで通りの活動で自主的に熊本支部を結成した。

「青雲」によると昭和二十年代に近畿・宇久・小値賀等に支部があり、近畿が最も活発に活動しているとあるが、誰かが

奉仕的精神でリードしていかないと運営は難しくなってくる。さらに同時期の記録に本会は政治・宗教活動には関与しないことが記されている。

同期会の活動は活発である。ほとんどの卒業回が、卒業二十年頃を最初として五年ごとに記念同期回を開催し、独自の事業や記念誌・アルバムを発行をしている。

部活動の同窓会は運動部が活発で、在校生チームと卒業生チームの交流試合を正月・盆に行ったり、ユニホームや活動資金の援助も行っているところもある。

かつての宇久・小値賀等の分校は宇久、北松西高校としてそれぞれ独立し、通信制は中央高高校へ移管、早岐分校は閉校になったが、長崎県立佐世保南高等学校同窓会はそれぞれを卒業しても皆を会員としている。

宇久・小値賀等の分校の卒業生は宇久、北松西高校の独立にともない、それぞれ地域の高校の同窓会とともに活動している模様であり、通信制では柏信会、早岐分校は柏友会としての活動もある。

同窓会の広報誌として平成八年に「柏葉」を創刊し、現在二号を出している。

## 福岡柏葉会

一九九八年：少年の頃、頭をよぎる事もなかった二〇〇〇年の足音が近づいてきた南高校創立五十周年……いまもって十八歳、あの頃が走馬灯のようにめぐる。川が流れていた。

図書館があった。花が咲いていた。級友が写真を撮った。カメラが高価な時代であった。昭和三十二年、高校三年の頃の思い出の一つである。

その南高校の同窓生が福岡県近郊に一二〇〇人以上お住まいである。

青春時代の面影をたよりに友を、幼なじみを求めるこの同窓会も一つの節目にきていますが同窓生の皆さんの努力で今年も終わりました。

二十年目・第十九回総会でした。

今年は十八回卒業生が担当しボウリング大会、総会、懇親会と続き若い諸君がハリキルかと思いきや我々老トルパワーが勝っていたようです。

招待した新卒業生も多数参加してくれ賑やかな同窓会になりましたことを当番幹事の皆さんに感謝いたします。

毎年恒例になっている還暦のお祝いも今年で九回目・学校長の大石先生・第九回卒業の諸先輩の方々と、後輩からの還暦祝いはうれしはずかし、まだまだテイコウを感じる（若さ）でしょう。が、おめでとうございます。

福岡は西の甲子園ともいえる金鷲旗（柔道）玉龍旗（剣道）の争奪戦に全国から若人が集まるところです。我々が南高校からも毎年参加されます同窓生の皆さん、OBの皆さん是非応援お願いします。毎年夏休みに入った直後です。

福岡柏葉会は当地にお住まいの佐世保各高等学校同窓会との親睦もあつく特に福岡北星会（北高校）との春秋ゴルフ大会も回を重ねております。その勝敗は………語らずにおき

ましよう。また今年から歩こう会（仮称）も歩き始めました。今回の同窓会は一九九九年にふさわしく博多湾クルージングを計画いたしております。又計画してくださった当番幹事も十九回卒業生と巡り合せもピッタシです。福岡県に移動された折りは皆さん是非ご連絡下さい。「まっとうけんね」

福岡柏葉会からのお便りでした。

### 東京柏葉会からの報告

南高等学校創立五十周年行事の記念誌に『東京柏葉会便り』として結成から現在までを『要望されましたので現況レポート』としてお知らせいたします。

まずは、創立五十周年記念心からお祝い申し上げます。

半世紀近くの間、南高校に巣立った多数の卒業生は九州地区を中心にしながらも全国に、いや、世界に、あらゆる業界や分野で活躍していることに卒業生の一人として力強いプライドを私は持っています。

東京柏葉会については設立当時、『結成便り』として書いたことがあります。それから八年経過して来たことでもありませんので、現況を加味してお知らせ致します。

当時、佐世保市にある佐世保北高、佐世保商業、佐世保工業、西海学園等は古くから東京に同窓会を開催して、程度の差はあれ、同窓会を持っていました。佐世保を一二〇〇km離れた関東地区で、お互いに故郷の共通する話題に花を咲かせ切磋琢磨出来る同窓会を、何故、佐世保南高は持っていないか

つたのか不思議でありました。

同期の友人や先輩後輩から東京佐世保会（佐世保出身者の会）等がある度に、同窓会の結成の希望の声がこちらこちらから湧きあがって来るが設立への実行まで結びつかなかった。

『これは旧制佐世保中学同窓会がそのまま延長線にあつて新制佐世保南高校同窓会』と思われているのではないか。そんな筈がない。南高の同窓会を作る必要がある。のは現実だ。

兎も角、誰かが行動しなければ出来ない。スタートしなければ出来ない。最初は参加人数が少なくても構わない。不完全でも許して貰えるだろう。回数を重ねることによって試行錯誤しながら、皆が希望する同窓会にすれば良いんだ。

そのように考えて結成に熱心な有志が集まり同窓会が生まれました。

それは平成二年一月二十六日。東京は目白の『椿山荘』出席者は男性一八〇人、女性一二〇人、合計三〇〇人の多数の参加者を持つ盛大な同窓会の誕生となりました。即ち、それまで、南高が社会に卒業生を送り出して以来、四十年近く東京に同窓会の存在を持たなかったと言う事を意味していた訳ですが、それから、母校の南高を扇の要とした話題で南高の発展と同窓生同志の交流の輪が拡大されて行くことになりました。

当時の校長、鶴田先生、事務局長、松尾義嗣先生の熱心なご指導とご協力があればこそ、東京同窓会が誕生したこともお知らせ致します。

あれから八年。東京柏葉会も南高卒業生の仲間にもある程

度その存在を知られるようになって来たと思われませんが、もつともつと、南高の先輩後輩、在校生に知られることにより、三年間、日宇の校舎で貴重な学生時代を学び過ごした共通の青春を大切にするために、同窓生の親交を暖め深め合うことが可能のように努力したいと思えます。

お陰様で、未だ充分とは言えませんが、各卒業年次幹事の組織率も増加しており、特に、今年からは卒業年次毎に、男女各一名の幹事を出して五〇%いる女性の声や出席率も強化したいと目論んでいます。

一方、まだ、同期会未組織の年次には、出来るだけ早く同期会が発足するようにバックアップし、情報等提供し、協力し合って漏れない縦の糸と横の糸の織物になりたい。

同期会が横の糸であれば同窓会は縦の糸。先輩後輩、在校生の強い絆が出来るためには全部の同期会が結成されてはじめて内容のある同窓会になります。

東京柏葉会は毎年、七月の第二土曜日前後に総会が開催されています。

先輩後輩の卒業生の皆様に、また、近い将来、同窓会仲間になる在校生の皆様に情報連絡、特に、住所変更等お願い致します。

大石校長先生には熱心なご支援ご協力を頂き厚く感謝致しておりますが、今後共各先生方にも宜しくご指導ご支援をお願い致します。

最後に、五十周年記念関連行事が盛大であることを祈願して報告を終わります。

## 「関西柏葉会」事始めの記

「関西柏葉会」は、生れて一年足らずの新しい組織です。その芽生えは、過去数回ありましたが、実現していませんでした。そんな中、一昨年秋、佐世保本部から二名の役員が来阪され、南高校もあと一年余りで五十周年を迎える、福岡、東京にすでにある柏葉会を関西でもぜひ発足させてくれとの強い要請がありました。この日は台風が接近中で雨風のひどい夜でした。この為、関西の南校OB有志の集まりも、わずかに五・六名というさびしいものでした。

その後、関西の南校OB各回生に呼びかけ二十数名の有志の集まりの中で「関西柏葉会設立準備委員会」がスタート、十数回の会合を重ねる中、(これも決って雨の日ばかり)手探りでの名簿作りが始まりました。

しかし、三年前の阪神大地震による被災者も多く、避難所生活(数カ月)仮設住宅(数カ月)さらに新しい住居へと転々とされた方々も多数あり難行しました。関西在住の南校OBは千五百名を超えると推計されますが、準備委の手元で把握できたのは七百名足らずでした。準備委では、とにかく設立総会を開きたいと、昨年十一月三十日、大阪梅田駅前の「神仙閣」で開催の方針を決定しました。それから準備委のメンバーは、案内状の作製、宛名書き、発送、返信チェック、さらには各委員ごとに自分の同期生への出席要請の電話、総会内容の検討、議案書、会則作り、等々忙しいボランティア活動でした。

さて、設立総会当日、準備委全員早朝より集合、会場受付等の設営、一方、良い天気にも恵まれたので出席率は良いと思うが、本当に来てくれるのかとヤキモキ。会場には来賓として、佐世保から大石征二校長、久田順子柏葉会会長他役員二名、さらに東京柏葉会、福岡柏葉会からも代表の方々が出席して頂きました。そして集まった関西の南校OBは、出席の返事の葉書を上廻る百二十五名、会場ではあわててテーブルを追加する嬉しいハプニング、この大盛会には準備委一同、本当にホットすると同時に、今迄の苦勞がスツ飛んで行く気持ちで一杯でした。

設立総会は、会則の審議、役員を選出等々予定通り進み、浜本泉（二回生）を会長とする二十数名の幹事を選出、浜本会長が「母校発展のためにも、関西らしい柏葉会を作って行きたい。」とのあいさつのあと、懇親会となりました。懇親会は、卒業年次ごとにテーブルを囲み、なつかしか佐世保弁ばしゃべり旧交を温め、記念写真、ビンゴゲームの後、懐かしい校歌、応援歌を斉唱、有意義かつ楽しい総会となりました。「関西柏葉会」はこれで正式に発足しました。

関西柏葉会のメンバーは、当日出席の百二十五名と、所用で出席できないがと事務連絡費を振り込んだ方一〇七名、合計二百三十二名が登録されたこととなります。そして今年は、さらなる飛躍の年として、昨年以上の総会を開こうと、若い人達の名簿の充実を第一目標に活動を始めています。



創立50周年記念時計塔